

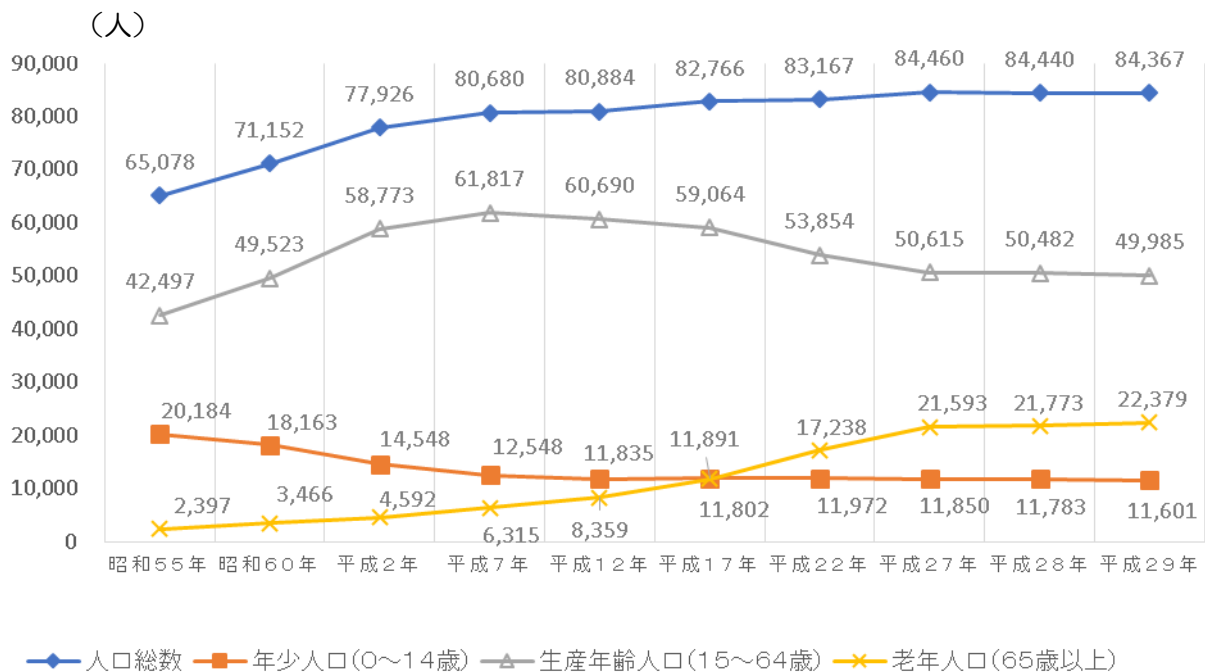
第3章

市民の健康を取り巻く状況

1 人口の状況

(1) 人口及び年齢構成の推移

人口は、昭和55年の65,078人から平成29年には、84,367人と約1.3倍となっています。人口の内訳では、昭和55年には、年少人口が20,184人、老年人口が2,397人でしたが、平成17年以降、老年人口が年少人口よりも多くなり、29年では老年人口が22,379人となっています。

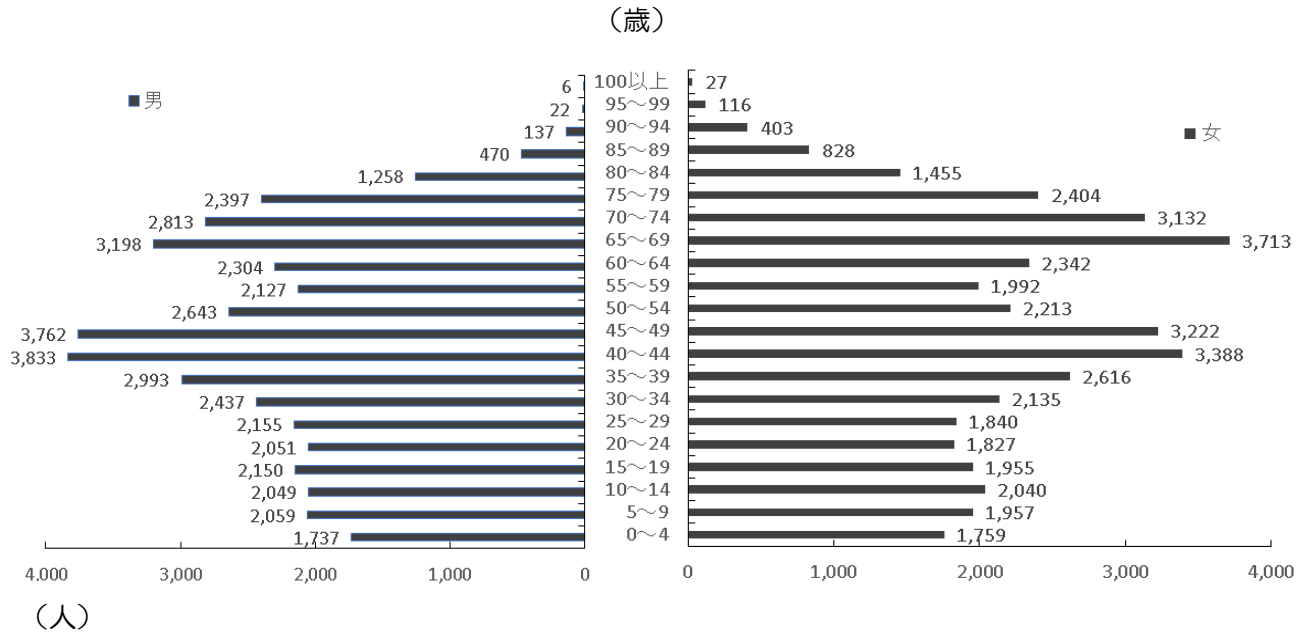


資料：国勢調査・神奈川県年齢別人口統計調査（各年1月1日現在）

※人口総数には年齢不詳を含む

(2) 年齢別構成図

平成 29 年の年齢別構成をみると、40 歳代、65～69 歳が男女とも多く、男性では 40 歳代、女性では 65～69 歳が最も多くなっています。

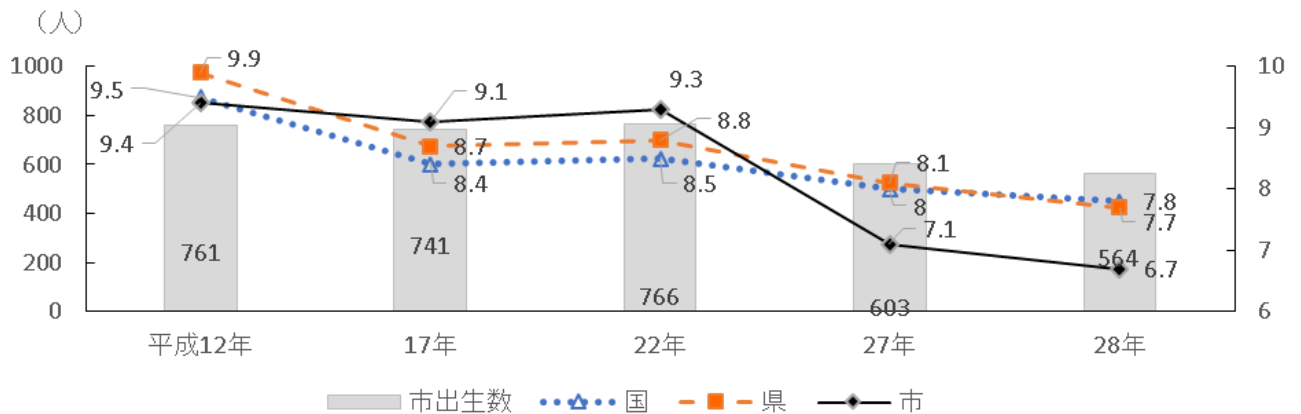


資料：神奈川県年齢別人口統計調査（平成 29 年 1 月 1 日現在）

(3) 人口動態

① 出生数と出生率（人口千対）

平成 12 年の出生率は 9.4 となっていました、28 年は 6.7 となっています。22 年からの低下率は大きいです。



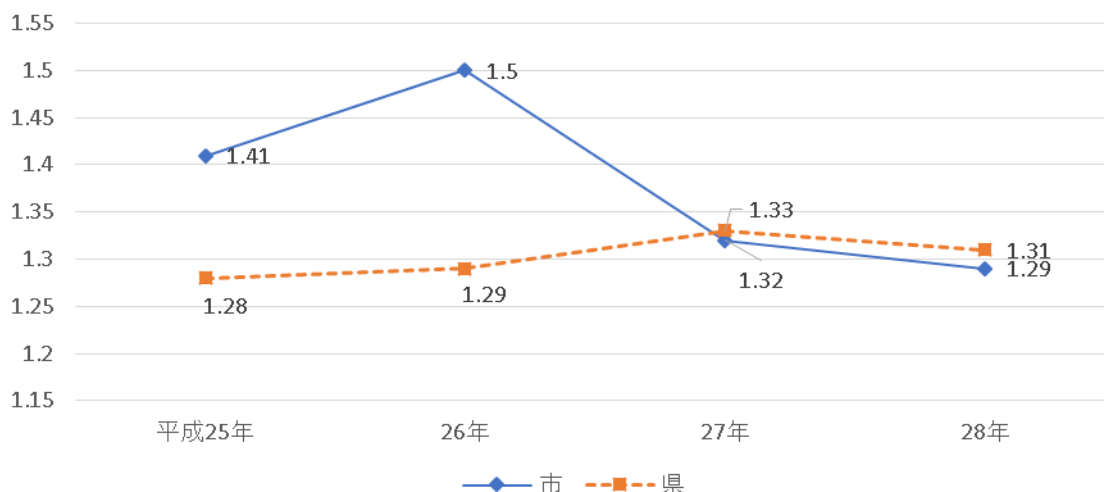
資料：厚生労働省「人口動態統計」

○ 出生率とは

一定人口に対する、その年の出生数の割合をいいます。

② 合計特殊出生率

平成26年に1.5と県平均の1.29より高くなっていますが、27年には県平均より低くなり、28年は1.29となっています。



資料：厚生労働省「人口動態統計」

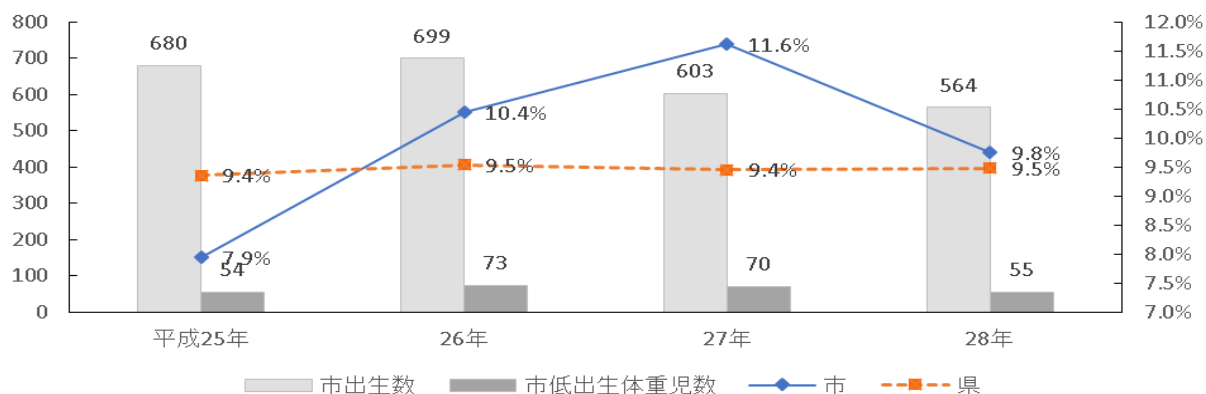
○ 合計特殊出生率とは

1人の女性が生涯に産む子どもの数を示します。合計特殊出生率が2であれば、夫婦2人から子ども2人ということとなり、世代の人口がほぼ維持されることとなります。

③ 低出生体重児（2,500g未満）

平成28年55人（9.8%）と、全体の出生数の約1割となっています。

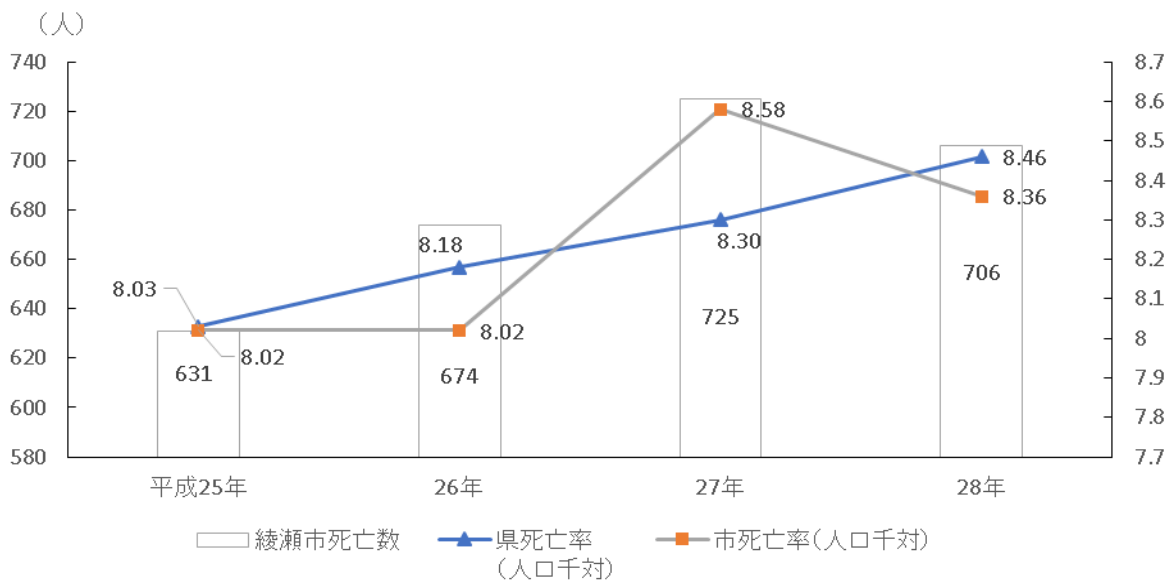
(人)



資料：神奈川県衛生統計年報

④ 死亡数・率（人口千対）

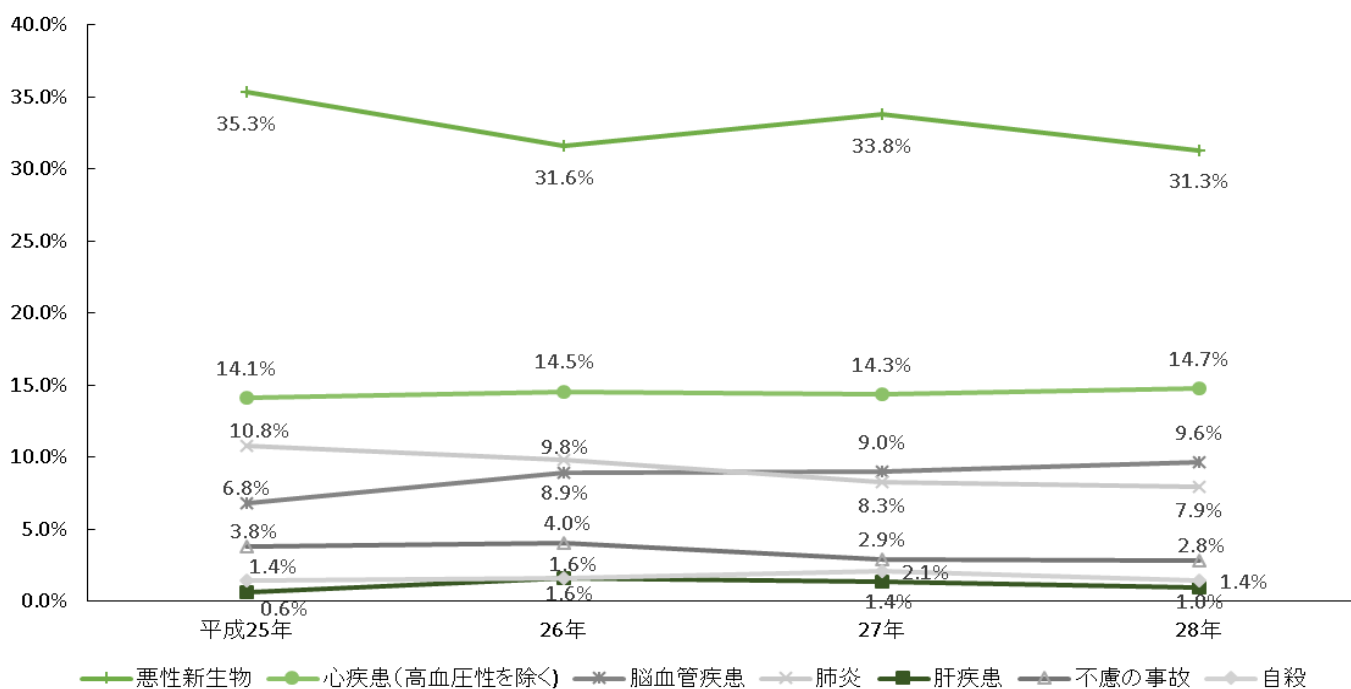
平成 28 年死亡数は 706 人で、死亡率は 8.36 となっています。



資料：神奈川県衛生統計年報

⑤ 主要死因

平成 28 年の主要死因の第 1 位は悪性新生物（31.3%）、第 2 位は心疾患（14.7%）、第 3 位は脳血管疾患（9.6%）、第 4 位が肺炎（7.9%）であり、この 4 疾患による死亡が全体の 63.5%となっています。



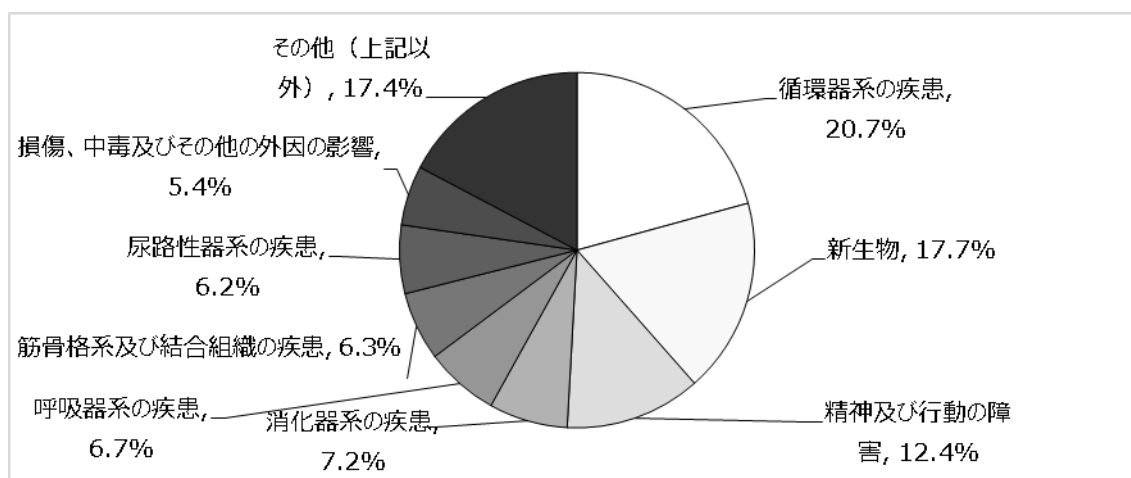
資料：神奈川県衛生統計年報

⑥ 主要疾病医療費の状況（国民健康保険事業）

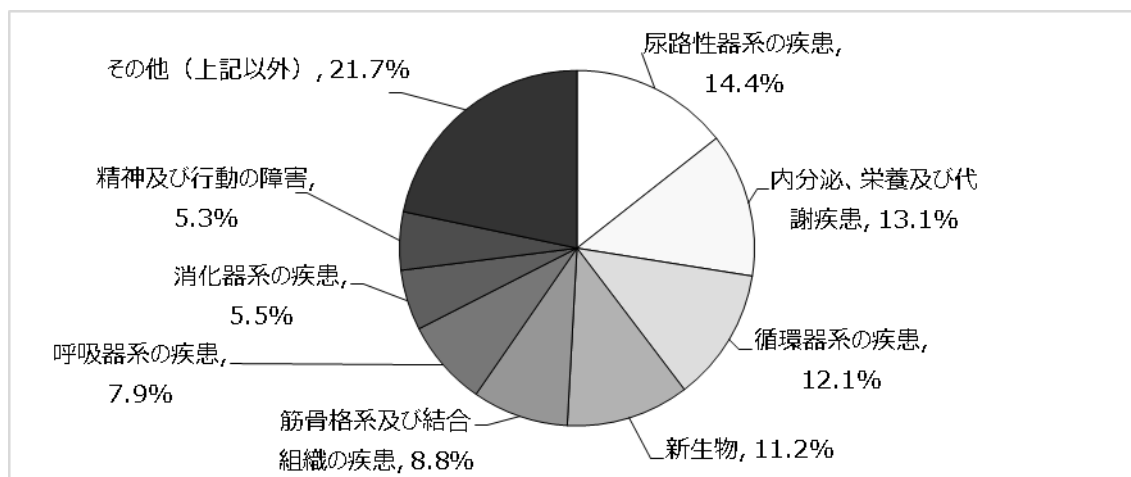
平成 28 年度の医療費を疾病大分類別に見ると、入院で循環器系の疾患が 20.7% で一番多く、次に新生物（17.7%）、精神及び行動の障害（12.4%）となり、3 疾病で入院医療費の 50.8% を占めています。外来では、尿路器系の疾患が 14.4% で一番多く、内分泌、栄養及び代謝疾患（13.1%）、循環器系の疾患（12.1%）と次いでいます。

平成 28 年度疾病大分類別医療費割合（入院、外来）

入院



外来

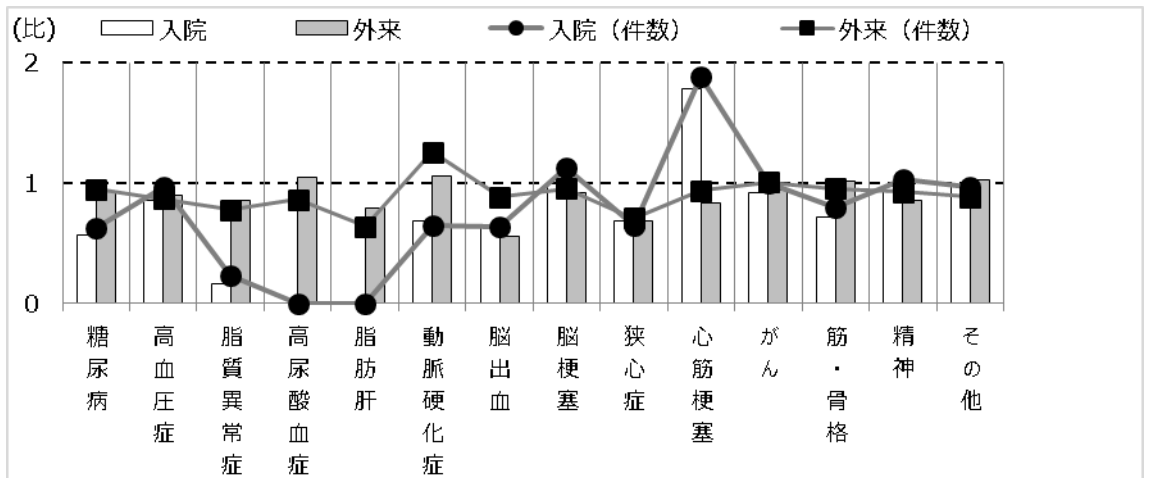


⑦ 生活習慣病の医療費の状況（国民健康保険事業）

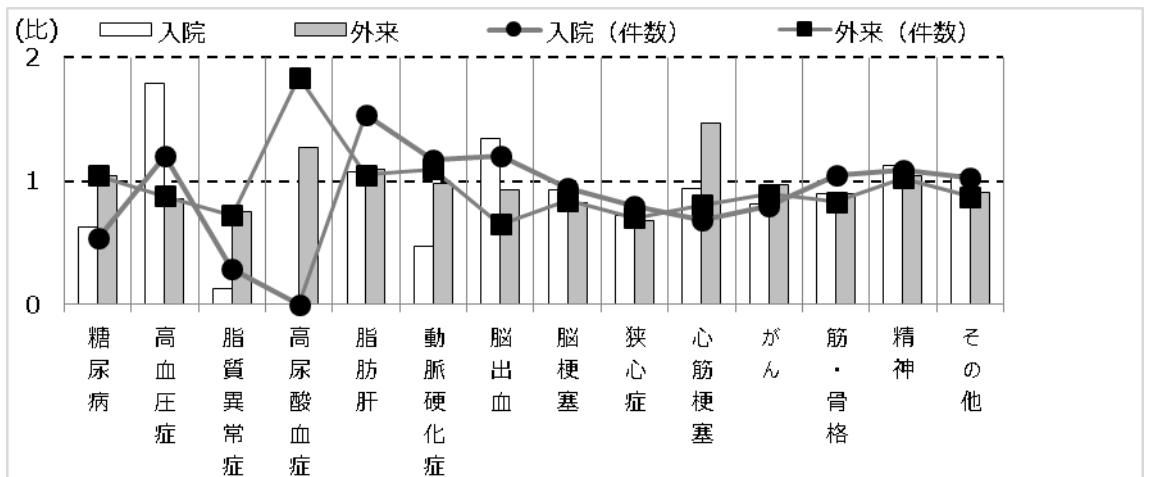
生活習慣病における特徴を把握するため、平成 28 年度生活習慣病に係る医療費について年齢別人口を調整した標準化医療費で神奈川県を 1 として比を出したところ（地域差指数）、入院費については、神奈川県と比べ、男性は心筋梗塞が女性は高血圧症が高くなっていることから、市における特徴的な課題の一つであるといえます。

平成 28 年度疾病別（生活習慣病）標準化医療費の差

男性



女性



注) 標準化医療費：神奈川県を 1 として比を出す指標（地域差指数）

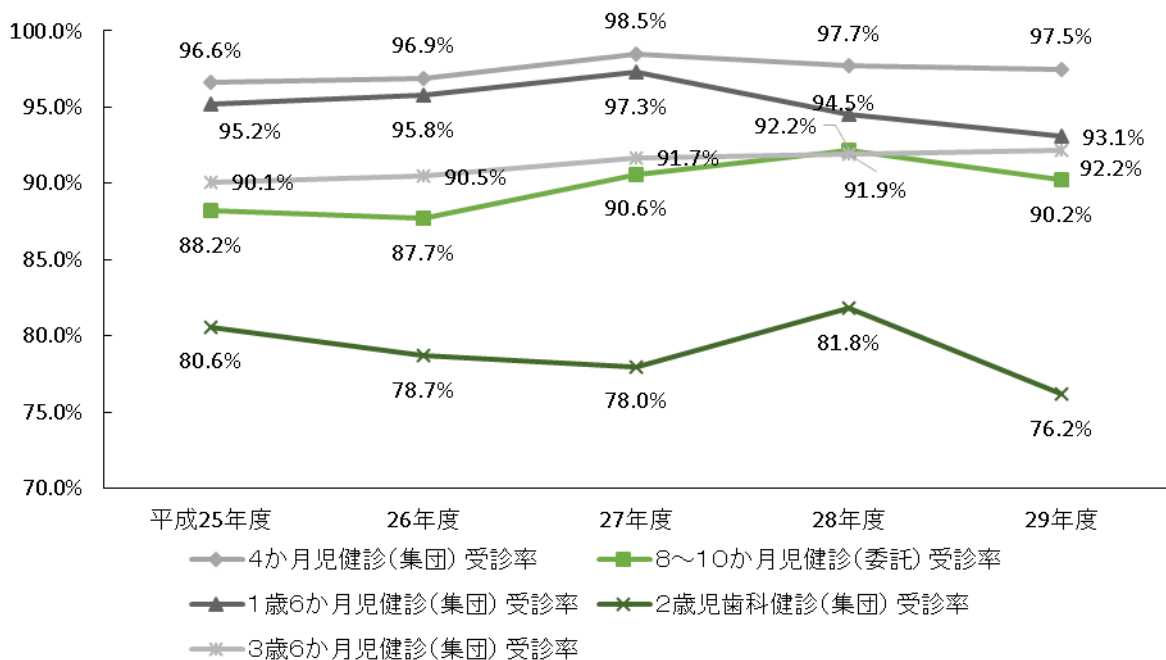
綾瀬市国民健康保険第 2 期保健事業計画、第 3 期特定健康診査等実施計画

2 各種保健事業の状況

(1) 母子保健事業

① 乳幼児健康診査受診率

各健診の受診率は、ほぼ横ばいで推移しています。2歳児歯科健診の受診率が他の健診の受診率に比べ低くなっています。



資料：平成29年度決算 保健衛生事業の概要

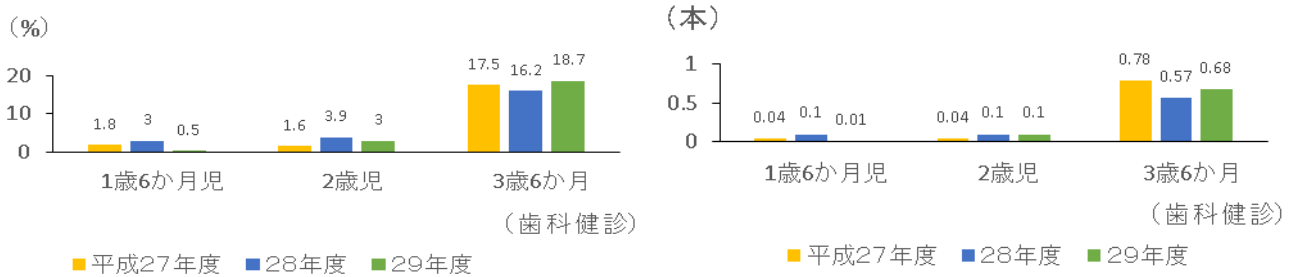
※1歳6か月児健診(集団)は平成29年度から、内科(委託)、歯科健診(集団)で実施。平成29年度の受診率は、歯科健診(集団)の受診率で表記。

② むし歯保有率・保有数

平成29年度のむし歯保有率は、1歳6か月児健診で0.5%、2歳児歯科健診で3.0%、3歳6か月児健診で18.7%となっています。一人平均むし歯保有数は1歳6か月児健診で0.01本、2歳児歯科健診で0.1本、3歳6か月児健診で0.68本となっています。

むし歯保有率

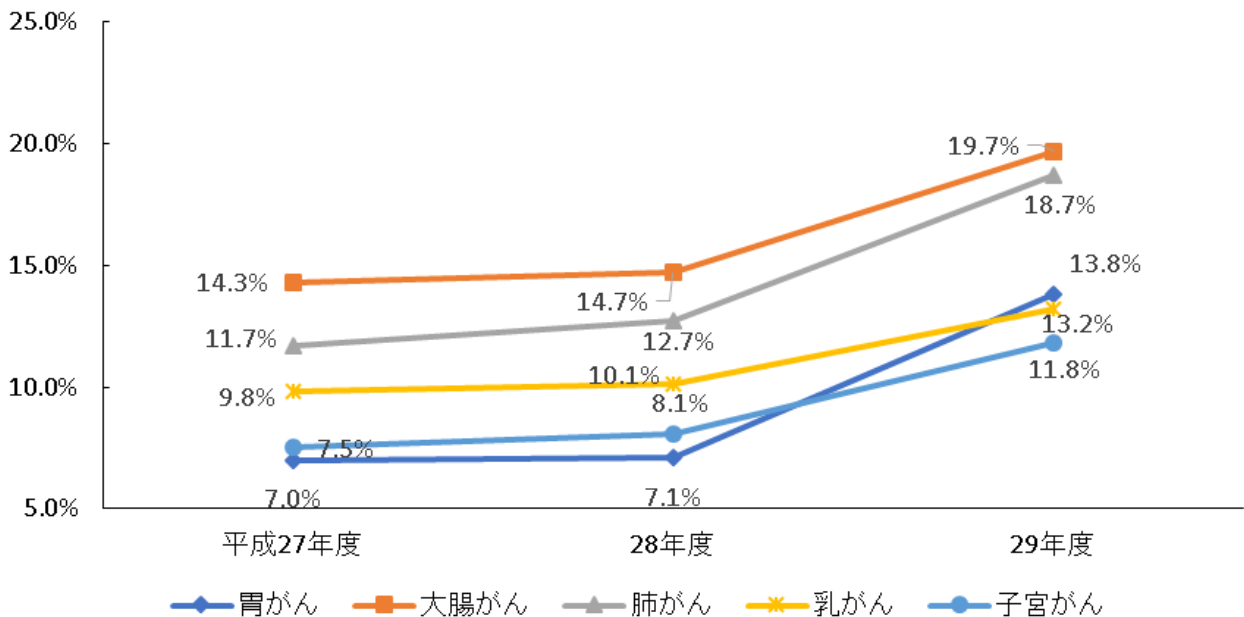
一人平均むし歯保有数



資料：平成27～29年度 保健衛生事業の概要

(2) がん検診

がん検診受診率の推移をみると、日曜がん検診や5がんレディース検診の実施等の取り組みにより、年々受診率は上昇しています。また、平成29年度は、個別勧奨受診券を導入したため、全てのがん検診の受診率が28年度と比較し、大きく伸びています。



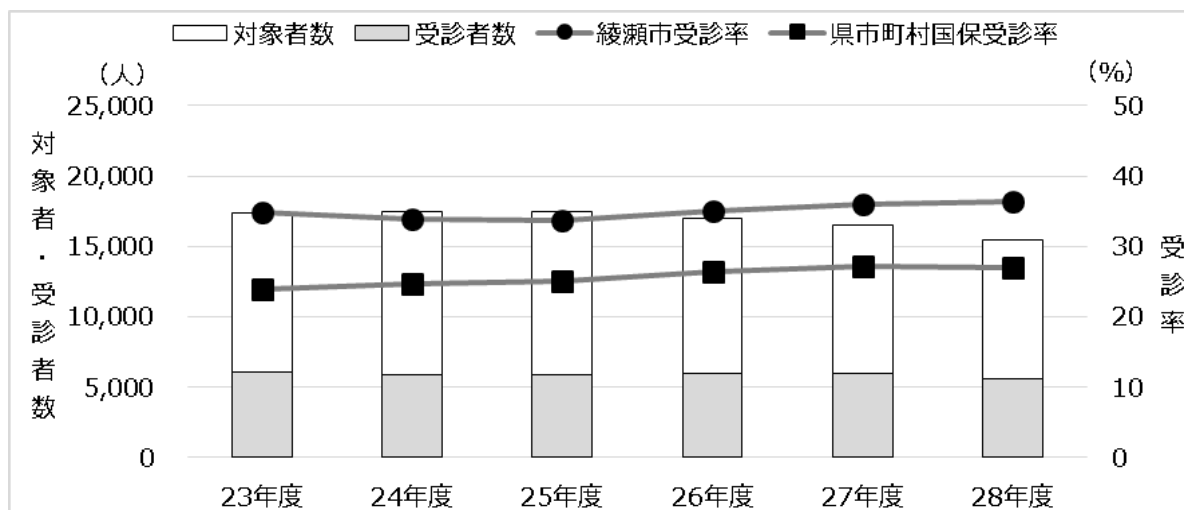
資料：平成29年度決算 保健衛生事業の概要

※がん検診対象者：40歳以上人口－40歳以上就業者＋農林水産従業者－要介護4.5認定者

(3) 特定健康診査

① 受診者数・受診率

平成 28 年度の特定健康診査の受診率は 36.4%で、神奈川県内の平均 27.0%を上回っており、増加傾向にあります。

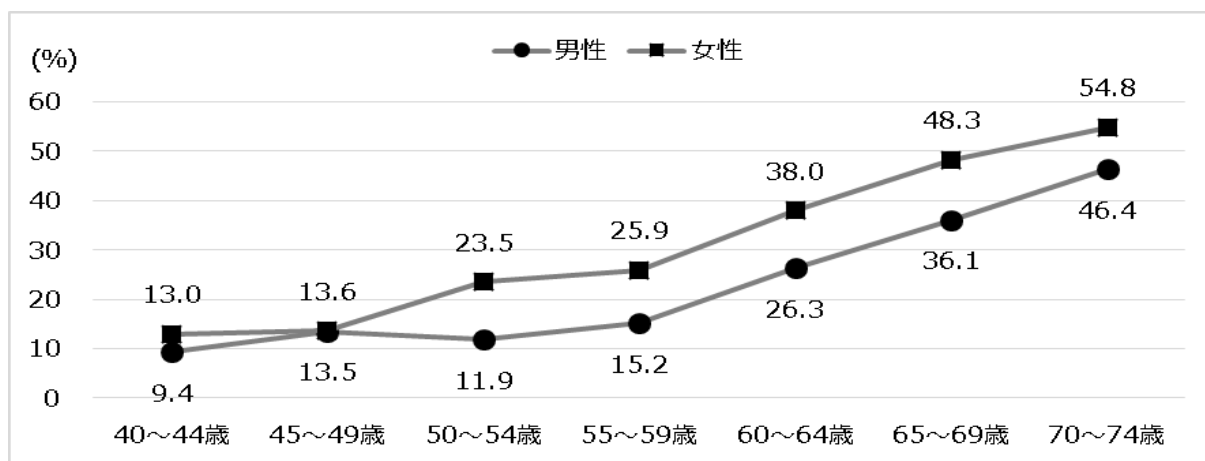


資料：綾瀬市国民健康保険第2期保健事業計画、第3期特定健康診査等実施計画

② 年代別受診状況推移

平成 28 年度の男女別、年齢階層別の受診率については、ほぼすべての年代で女性の受診率が男性の受診率を上回っています。

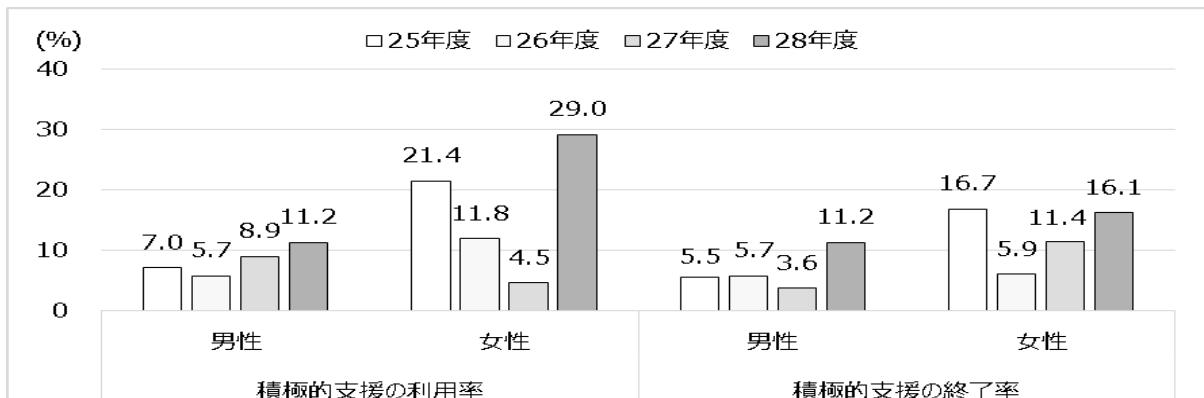
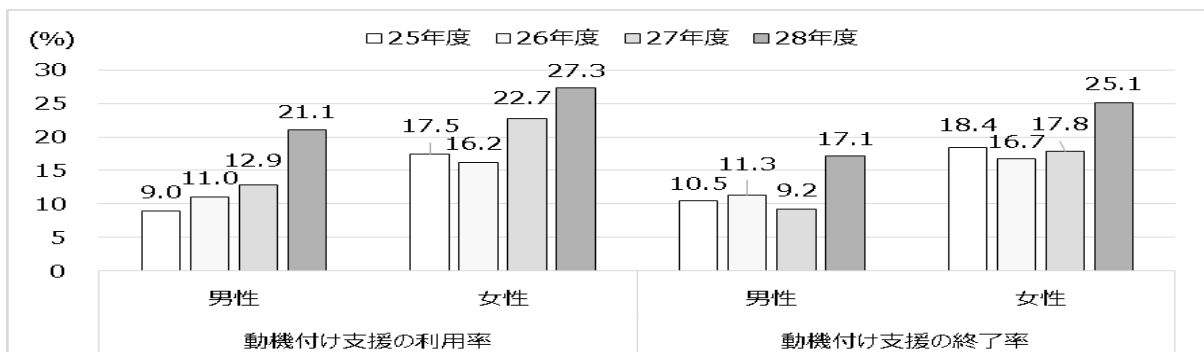
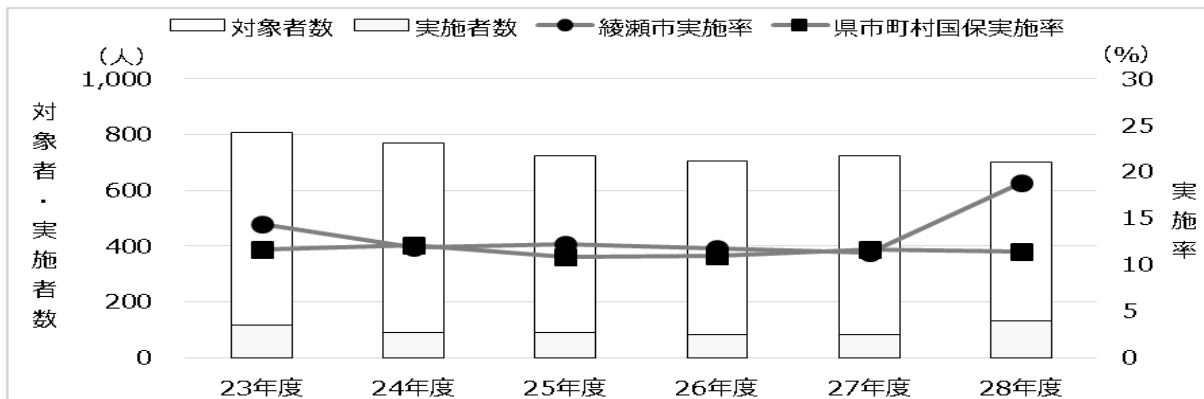
なお、男女ともに 40 歳代から 50 歳代の受診率が低く、年代が上がるにつれて受診率が高くなっています。



資料：綾瀬市国民健康保険第2期保健事業計画、第3期特定健康診査等実施計画

③ 特定保健指導対象者数・特定保健指導利用率

特定保健指導対象者数をみると、平成 28 年度の市の特定保健指導の実施率は 18.8%で、神奈川県内の平均 11.4%を上回っており、特定保健指導利用率も動機付け支援、積極的支援ともに増加しています。



資料：綾瀬市国民健康保険第2期保健事業計画、第3期特定健康診査等実施計画
 ※保健指導は、開始から6か月で終了するため、利用率と終了率に差異が生じます。

○ 特定保健指導とは

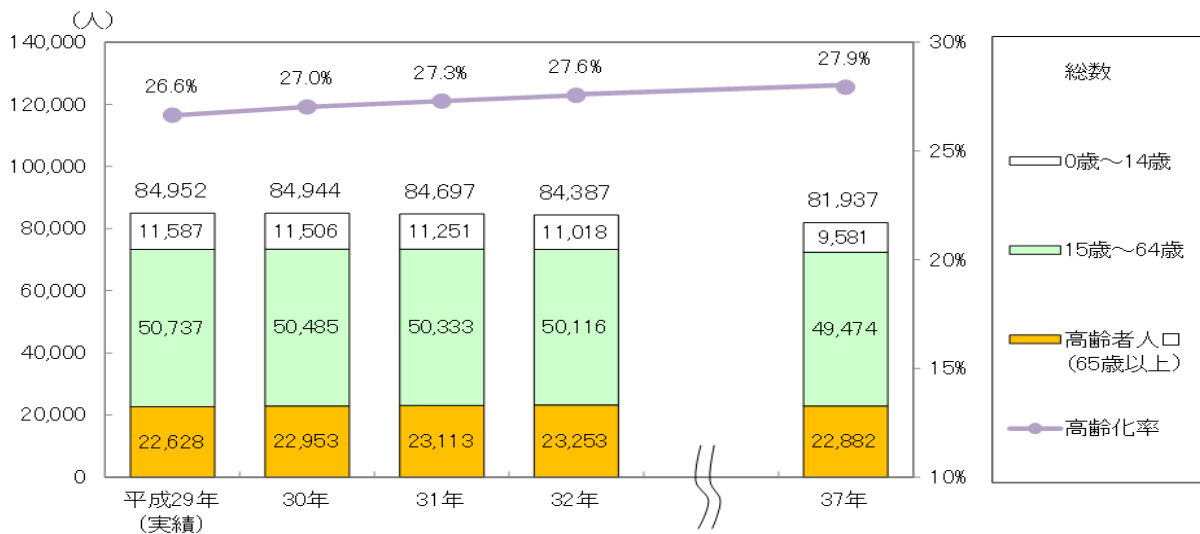
生活習慣の改善が必要な方に対して、食事や運動など、自身に合った行動目標を設定・実行できるよう医師・保健師・管理栄養士等が保健指導を実施します。リスクの程度に応じて、「動機付け支援」と「積極的支援」に分かれます。

3 要介護（要支援）認定者の状況

① 高齢者人口と高齢化率の将来推計

高齢者人口は、平成32年に23,253人でピークとなり、平成37年には22,882人と、わずかながらも減少に転じる見通しです。

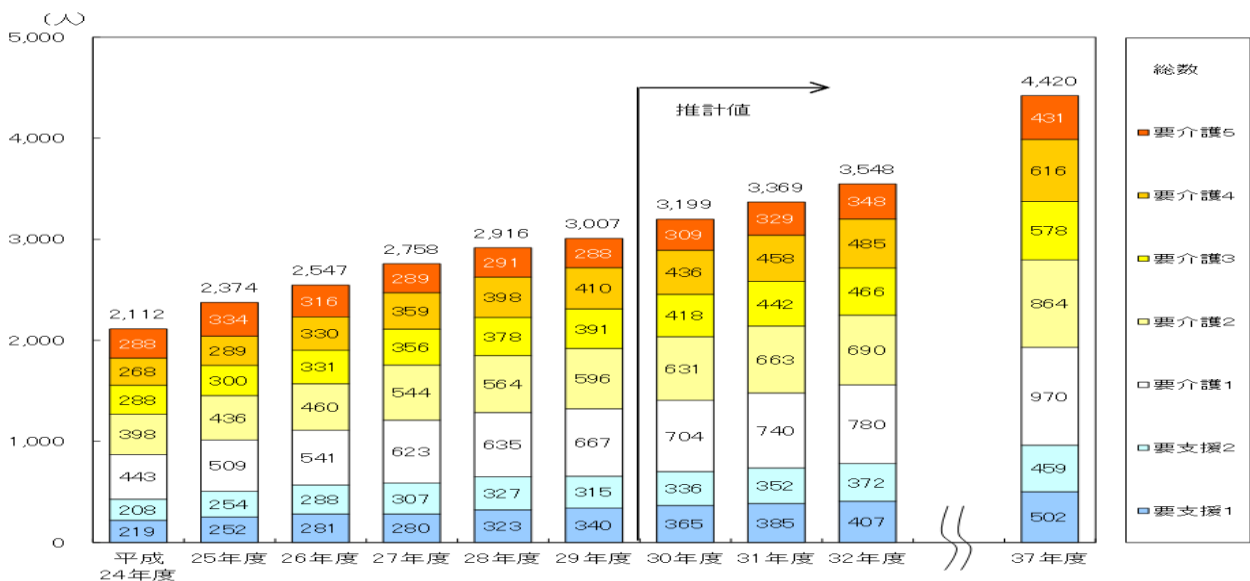
高齢化率は引き続き上昇傾向を示し、平成37年には27.9%になる見込みで、今後も増加する推計となっています。



資料：綾瀬市高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画

② 要介護（要支援）認定者数の推計

要支援・要介護認定者数は年々増加し、平成32年度には3,548人と29年度と比べて500人以上の増加が見込まれています。



資料：綾瀬市高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画

4 医療・介護を取り巻く状況

平成30年3月31日現在で、病院が1か所、一般診療所が33か所、歯科診療所が28か所となっています。

医療関係施設の状況（平成30年3月31日現在）

医療施設等（ ）は病床数					薬事施設		施術所	
病院	一般診療所	歯科診療所	助産所	歯科技工所	薬局	医薬品販売店	あんま・はり・灸	柔道整復
1 (168)	33 (29)	28	1	8	16	18	33	18

資料：平成30年度厚木保健福祉事務所大和センター

介護保険施設の状況（平成30年3月31日現在）

地域包括支援センター	介護老人福祉施設（特養）	介護老人保健施設	短期入所施設	ケアハウス	有料老人ホーム	サービス付き高齢者向け住宅	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	小規模多機能型居宅介護	認知症対応型共同生活介護
5	3	1	5	2	10	4	1	1	4

資料：綾瀬市高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画

医療施設と人口10万対の人口比では、病院は1.2、一般診療所は39.3、病床数と人口10万対の人口比では、一般病床数は128.5となっています。病院・診療所数、病床数ともに県と比較して低くなっています。

医療施設と人口比（人口10万対率）（平成30年3月31日現在）

	病院	一般診療所	歯科診療所
綾瀬市	1.2	39.3	33.3
神奈川県	3.7	73.4	54.6

資料：平成30年度厚木保健福祉事務所大和センター

病床数と人口比（人口10万対率）（平成30年3月31日現在）

	一般病床数	精神病床数	療養病床数
綾瀬市	128.5	—	71.3
神奈川県	509.2	152.1	145.1

資料：平成30年度厚木保健福祉事務所大和センター

5 食を取り巻く状況

(1) 農業

農業を農業産出額でみると、耕種 42.1%、畜産 57.9%となっています。農作物については、水稻・露地野菜・施設野菜・施設花き・果樹等の多様な作物が生産されています。また、水稻や野菜を生産する農家では、販売なしの自給的農家数が多くなっており、農家戸数の43.1%を占めています。流通販売方法は、市場出荷・直売・自家消費と多様になっています。生産に力をいれているものとして、ブロッコリーやトウモロコシがあげられます。

畜産については酪農・肉牛・養豚・養鶏が営まれ、中でも養豚は市農業の基幹をなし、県内の企業養豚発祥の地として現在に至っています。各畜産農家は、地域との調和を図りながら、家畜改良や新技術導入等に取り組み、高品質で安全な畜産物の生産を行っています。

総農家数の変遷

項目／年	単位	昭和40年	45	50	55	60	平成2年	7	12	17	22	27
総農家数	戸	884	788	674	635	615	489	431	382	371	363	339

資料：農林業センサス

耕地面積の変遷

項目／年	単位	昭和40年	45	50	55	60	平成2年	7	12	17	22	27
田	ha	152	108	78	74	44	26	23	19	19	17	15
畑	ha	713	424	250	310	369	367	300	267	265	255	244

資料：神奈川農林水産統計年報

地場農産物収穫時期

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
トマト												
ブロッコリー												
キャベツ												
キュウリ												
レタス												
トウモロコシ												
サツマイモ												
ナシ												

(2) 地産地消への取り組み

地場産物の購入を推進するため、市内の地場産物の購入先がわかる「農産物マップ」を作成して市役所等で配布しています。

秋に開催されるあやせ産業まつりでは、豚肉や野菜などの地場産物を使った、名物「豚すき」を約 3,500 食配布し、農業への理解と地場産物の PR をしています。

また、家族や地域の人たちとともに土に親しみ、収穫の喜びを体験できる市民農園「ふれあい農園」を市内6か所で運営しています。

その他、公立保育園や小中学校でも食育や地産地消の取り組みを進めています。平成 29 年度で公立小中学校の学校給食で地場産物を使用した割合は、県内産食材が 26.2%、市内産食材が 7.9%となっています。

あやせ新鮮農産物マップ



あやせ産業祭り名物
「豚すき」を作る様子

ふれあい農園の概要（平成 29 年 3 月 1 日現在）

農園名	小園 ふれあい農園	中村 ふれあい農園	上土棚 ふれあい農園	水久保 ふれあい農園	蓼川 ふれあい農園	吉岡 ふれあい農園
農園面積	1,856 ㎡	998 ㎡	2,527 ㎡	1,074 ㎡	1,100 ㎡	1,498 ㎡
区画数	60 区画 (20 ㎡)	35 区画 (20 ㎡)	79 区画 (20 ㎡)	34 区画 (20 ㎡)	36 区画 (20 ㎡)	25 区画 (20 ㎡)